

古典講読 ～ “かなふみ” 源氏物語～

[講座紹介] ことばにより築きあげられた文学作品のなかに描き出される、興味深いもうひとつの現実——『源氏物語』をじっくりと“かなふみ”の観点から味わい読んでいきます。古語の意味解釈の域にとどまらず、ことばの“こゑ（聲）”や“かたち”にも注意して、平安期の古典作品を読みとく楽しみや面白み、ひいては醍醐味にもふれられるなら幸いです。

講師 西 耕生（愛媛大学名誉教授）

時間 金曜日 13:30～15:30 場所 生涯学習センター 定員 50名 受講料 1,200円

回	日 程	テーマ（内 容）
1	10月9日	『やまとうた』の受容 枕草子や源氏物語をはじめとする平安中期の“かな”文学作品を大きく支える基盤のひとつ——倭歌の受容について、三代集を中心に辿りなおします。
2	10月23日	「日本紀の御局」 紫式部日記にしるされている源氏物語にかかわる記事を探りあげ、この物語が成立した当時の様子について、概観します。
3	11月6日	『ものがたり』という古語 現在も、文芸ジャンルの名称として用いられる古語「ものがたり」をめぐって、古代における用法と意味内容をあらためて確かめながら辿ります。
4	11月20日	『ひかる源氏』をめぐる伝承 源氏物語の始まりの巻々のうち、現行巻序において第二番目に位置づけられている帚木巻頭をとりあげ、物語という様式について、思いめぐらせます。